

原爆の火ともし平和問う

広島原爆の残り火をともし、平和について考えるイベント「キャンドルナイトワンピース」が12月18日、燕市燕のアトリエ「yasutacafe」で開かれる。帰国した韓国人被爆者が多く暮らし、「韓国のヒロシマ」と呼ばれる陝川カチンから火が届けられる。同実行委員会(大阪市)が、2007年から夏至や冬

12月18日
トナイト
ドナル
来月
で
燕キャ

至に合わせて全国各地で開催。今回は本県や東京、北海道など9都道府県のほか、韓国でも催される。

原爆の火は、広島で兵役に就いていた男性が犠牲となった叔父の形見として故郷の福岡県に持ち帰り、保存されて

いる「平和の火」。12月上旬に、陝川に火を運び、そこから各地に届ける。本県には、

和歌山県の女子高校生が韓国から運び、在韓被爆者の思いや平和の火の意味について伝えた上で、参加者に採火する。

午後7時から。参加費2500円。申し込みは29日まで、同アトリエの大橋さん、090(8610)7017。

在韓被爆者の思い伝える